ONKYO®

インテグレーテッドアンプ

A-973

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

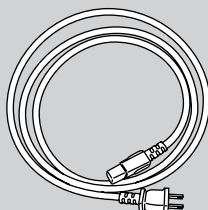
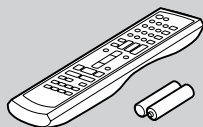
■スパイクノイズの影響を排除、独自のA/D変換回路VL Digital(デジタル)
■小音量時でも豊かなサウンド、オプティマム・ゲイン・ボリューム
■電流供給能力を改善し音の安定度を高めたカスタムトランス
■音質に配慮した10000μF×2個のカスタムコンデンサー
■金メッキピンジャック採用
■着脱式の極太電源コード
■音質調整回路を通さず、ソース本来の音を忠実に再現するピュアダイレクト機能
■ボリュームにアルミ材を使用
■出力するスピーカーを選べるスピーカーA/B端子装備
■ RI端子付きオンキヨー製品の操作が可能なシステムリモコン付属
■音質を重視したディスクリートPHONO(フォノ)イコライザー回路
■バナナプラグ対応大型スピーカー端子装備

付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

●リモコン(RC-627S) .... (1)
●乾電池(単三形、R6) ..... (2)

●電源コード(2m) ..... (1)

●取扱説明書 .... （本書1）
●保証書 .... （1）
●オンキヨーご相談窓口
・修理窓口のご案内 .... （1）
●ユーザー登録カード ..... （1）

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

はじめに

接続をする

音楽を鑑賞する

その他

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△記号は「ご注意ください」という 内容を表しています。

高温注意

感電注意

⊘記号は「〜してはいけない」という 禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの背面に通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
（本機の天面から5cm以上、横から20cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■本機後面の電源コンセントには表示された供給電力を越える機器を接続しない

禁止

表示された供給電力以内でも、ヘアードライヤー・電気こたつなどの電熱器具、オーブンレンジなどの調理器具は接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

A-973(04-06)(SN29344448) 4 07.1.17, 8:52 AM
ブラック

⚠警告

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔から入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

電池に関するご注意

■乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れる

■電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

⚠注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

⚠注意

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に挿し込む

禁止

挿し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き挿ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量に注意する

必ずする

突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■長時間大きな音でヘッドホンを使用しない

禁止

聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動時のご注意

■移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。

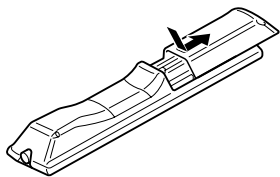
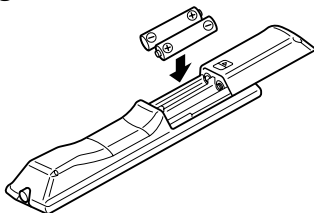
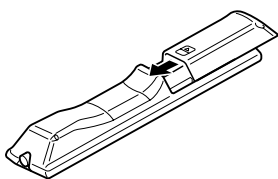
■機器内部の点検について
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■本機のお手入れについて
- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

A-973(04-06)(SN29344448) 6 07.1.17, 8:53 AM
ブラック

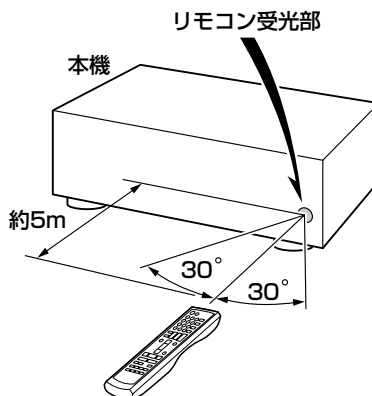
リモコンを準備する

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向にずらして開ける

2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と－（マイナス）を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単3形をご使用ください。

リモコンの使いかた

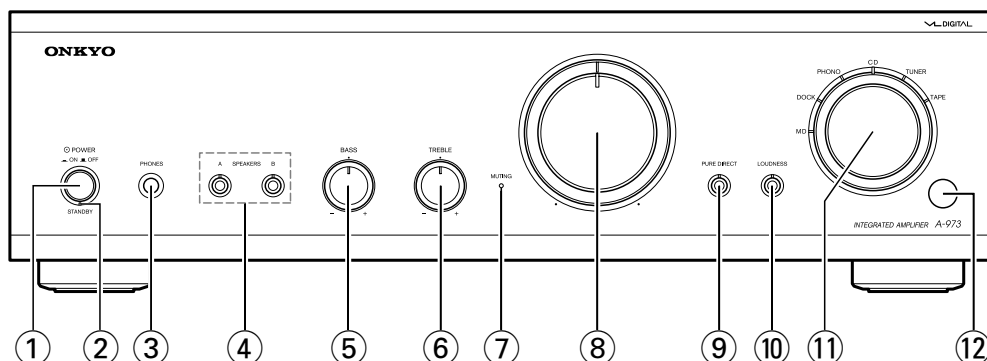
リモコンは本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

A-973(07-12)(SN29344448) 7 07.1.17, 8:53 AM
ブラック

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　〕内のページに主な説明があります。

① POWER（パワー）スイッチ〔17〕
本機の主電源を入（ON（オン））/切（OFF（オフ））します。
OFFにすると電源は完全に切れます。

② STANDBY（スタンバイ）インジケーター〔17〕
本機がスタンバイ状態のときに点灯します。
スタンバイ状態にするには、リモコンで操作します。

③ PHONES（フォーンズ）端子〔18〕
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

④ SPEAKERS（スピーカー） A/Bボタン〔17〕とインジケーター
音を出すスピーカーをAまたはBから選びます。
選ばれているインジケーターが点灯します。

⑤ BASS（バス）つまみ〔19〕
低音の音量を調節します。

⑥ TREBLE（トレブル）つまみ〔19〕
高音の音量を調節します。

⑦ MUTING（ミューティング）インジケーター〔18〕
ミューティングが働いているときにこのインジケーターが点滅します。

⑧ VOLUME（ボリューム）つまみ〔18〕
音量を調整します。

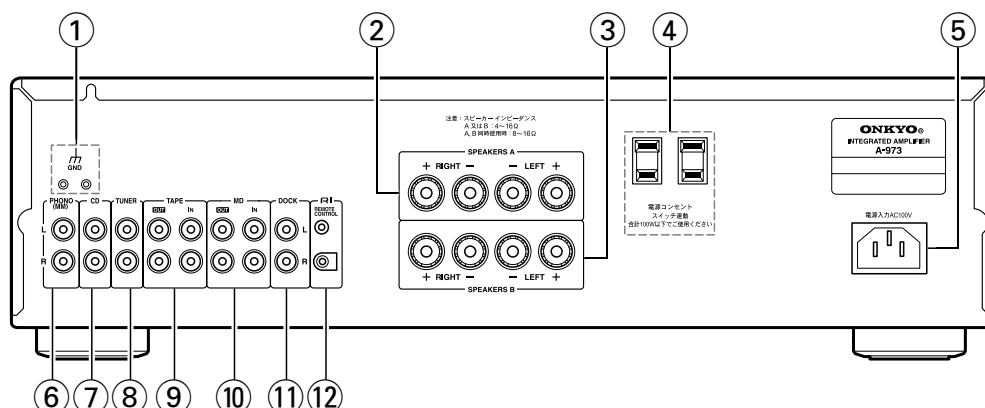
⑨ PURE DIRECT（ピュア ダイレクト）ボタンとインジケーター〔19〕
PURE DIRECT（ピュア ダイレクト）機能のオン/オフを切り換えます。
オンのときは、インジケーターが点灯します。

⑩ LOUDNESS（ラウドネス）ボタンとインジケーター〔19〕
ボタンを「オン」にすると、音量が小さなとき高音と低音が少し強調されます。「オン」のときはインジケーターが点灯します。

⑪ INPUT（インプット）つまみとインジケーター〔18〕
再生する機器を選びます。選ばれている機器のインジケーターが点灯します。

⑫ リモコン受光部〔7〕
リモコンからの信号を受信します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

後面パネル

① GND端子
レコードプレーヤーのアース線を接続します。

② SPEAKERS A端子
スピーカーAを接続する端子です。

③ SPEAKERS B端子
スピーカーBを接続する端子です。

④ 電源コンセント
本機に接続するオーディオ機器の電源プラグを接続します。

⑤ 電源入力AC 100V
付属の電源コードを接続します。

⑥ PHONO（MM）端子
MMカートリッジタイプのレコードプレーヤーを接続します。

⑦ CD端子
オーディオ用ピンコードを使って、CDプレーヤーの音声出力端子と接続します。

⑧ TUNER端子
オーディオ用ピンコードを使って、チューナーを接続します。

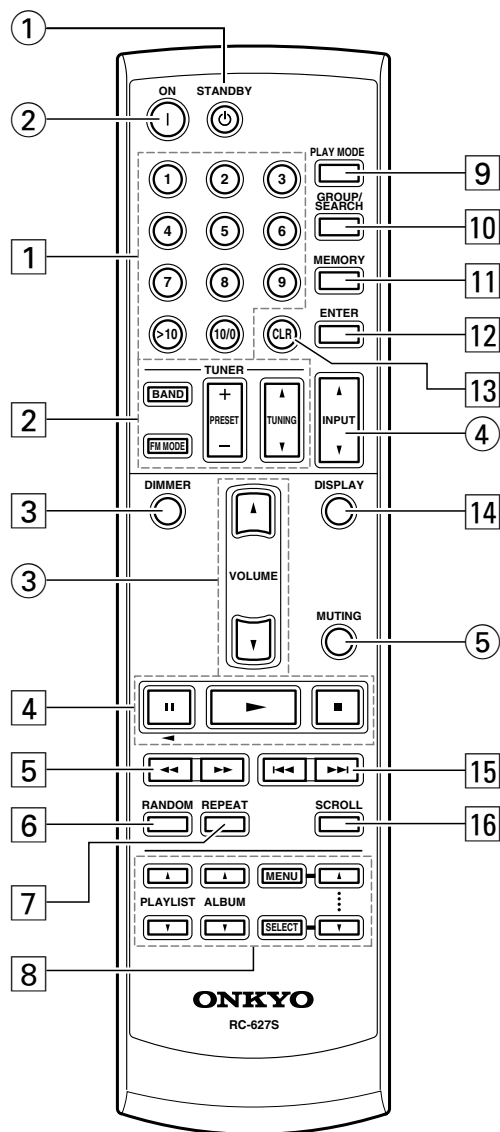
⑨ TAPE端子
オーディオ用ピンコードを使って、テープデッキなど録音機器の音声入出力端子と接続します。

⑩ MD端子
オーディオ用ピンコードを使って、MDレコーダーなど録音機器の音声入出力端子と接続します。

⑪ DOCK端子
オーディオ用ピンコードを使って、オンキヨー製RIインタラクティブドック（RIドック）などを接続します。

⑫ RI端子
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

接続については、13～16ページをご覧ください。

本体、リモコンボタンの名前と働き

リモコン（本機を操作するボタン）

ここでは、本機を操作するボタンについて説明します。

① STANDBY（スタンバイ）ボタン〔17〕
本機をスタンバイ状態にします。

② ON（オン）ボタン〔17〕
本機の電源を入れます。

③ VOLUME（ボリューム）▲/▼ボタン〔18〕
音量を調節します。

④ INPUT（インプット）▲/▼ボタン〔18〕
本機で聞くソースを選びます。

⑤ MUTING（ミューティング）ボタン〔18〕
音量を一時的に小さくします。

リモコン（その他）

ここでは、本機後面の入力端子にRI接続したオンキヨー製機器のときに使用できるボタンについて説明します。
12ページに一覧表を載せていますのでご参照ください。
機器の接続については、14～16ページをご覧ください。

1 数字ボタン
オンキヨー製CDやMDの選曲をします。
10/0ボタン：10または0を選びます。
＞10ボタン ：2桁以上の曲を選びます。
詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

2 オンキヨー製TUNER（チューナー）操作ボタン
BAND（バンド）ボタン：押すたびにFMとAMが切り換わります。
FM MODE（モード）ボタン：FM放送を「モノ」または「ステレオ」に切り換えます。
PRESET（プリセット）＋/－ボタン：登録した放送局を選びます。
TUNING（チューニング）▲/▼ボタン：放送局の周波数を合わせます。

3 DIMMER（ディマー）ボタン
オンキヨー製CDの表示部の明るさを切り換えます。

4 オンキヨー機器操作ボタン
ダブルカセットデッキの場合は、デッキBのみ操作することができます。
II（ポーズ）ボタン：再生を一時停止します。
カセットデッキの場合は、リバース再生をします。
■（ストップ）ボタン：再生を停止します。
►（プレイ）ボタン：再生を始めます。

5 ◀◀/▶▶ボタン
オンキヨー製CDやMD、RIドックの場合、早戻し、早送りボタンとして働きます。

6 RANDOM（ランダム）ボタン
オンキヨー製CDやMD、RIドックの場合、RANDOM（ランダム）やSHUFFLE（シャッフル）ボタンとして働きます。オンキヨー製カセットデッキを再生する場合は、ドルビーNRボタンとして働きます。

7 REPEAT（リピート）ボタン
オンキヨー製CDやMD、RIドックの場合、REPEAT（リピート）ボタンとして働きます。オンキヨー製カセットデッキを再生する場合は、リバースモードボタンとして働きます。

8 オンキヨー製RIドック操作ボタン
RIドックのときに操作できるボタンです。

PLAYLIST（プレイリスト） ▲/▼：プレイリスト選曲ボタンとして働きます。

ALBUM（アルバム） ▲/▼：アルバムリスト選曲ボタンとして働きます。

MENU（メニュー）：メニューボタンとして働きます。

SELECT（セレクト）：選択ボタンとして働きます。

▲/▼：メニュー内容を選択するボタンとして働きます。

9 PLAY（プレイ） MODE（モード）ボタン
オンキヨー製MDまたはCDの再生モードを選びます。

10 GROUP（グループ）/SEARCH（サーチ）ボタン
オンキヨー製MDのグループを選択するときに使用します。MP3 CDでは曲番を選択するときに使用します。

11 MEMORY（メモリー）ボタン
オンキヨー製CDやMDの再生する曲順を記憶させます。

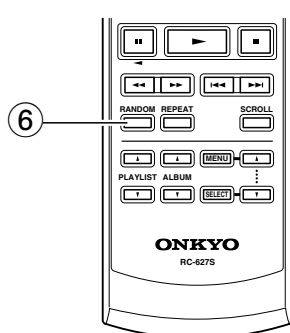
12 ENTER（エンター）ボタン
オンキヨー製CDやMDを接続している場合に、設定した内容を決定するときに押します。

13 CLR（クリア）ボタン
オンキヨー製CDやMDで記憶した曲を取り消します。

14 DISPLAY（ディスプレイ）ボタン
オンキヨー製CDやMDの表示部の内容を切り換えます。
オンキヨー製RIドックの場合は、バックライトを点灯させます。

15 |◀◀/▶▶|ボタン
オンキヨー製CDやMD、RIドック、CDRの場合に、前後の曲を選ぶボタンとして働きます。押すたびに前または後に曲番がスキップします。
カセットデッキの場合は、巻戻し/早送りボタンとして働きます。

16 SCROLL（スクロール）ボタン
オンキヨー製MDの文字を移動表示します。
オンキヨー製RIドックの場合は、バックライトを点灯させます。

本体、リモコンボタンの名前と働き

例：⑥RANDOMボタンの場合

- MD端子にMDレコーダーを接続した場合や、CD端子にCDプレーヤーを接続したときは、「RANDOM」ボタンとして働きます。
- DOCK端子にRIドックを接続したときは、「SHUFFLE」ボタンとして働きます。
- TAPE端子にカセットデッキを接続したときは、「DOLBY NR」ボタンとして働きます。

	接続端子	MD	DOCK	CD	TUNER	TAPE
	入力名称 ／ リモコンのボタン名	MD	DOCK	CD	TUNER	TAPE
1	1～9	1～9		1～9		
	10/0	10/0		10/0		
	>10	>10		>10		
2	BAND				BAND	
	FM MODE				FM MODE	
	PRESET +/−				PRESET +/−	
	TUNING ▲/▼				TUNING ▲/▼	
3	DIMMER			DIMMER		
4	❚❚	❚❚	❚❚	❚❚		❚❚*
	▶	▶	▶	▶		▶*
	■	■	■	■		■*
5	◀◀/▶▶	◀◀/▶▶	◀◀/▶▶	◀◀/▶▶		
6	RANDOM	RANDOM	SHUFFLE	RANDOM		DOLBY NR
7	REPEAT	REPEAT	REPEAT	REPEAT		REV MODE
8	PLAY LIST ▲/▼		PLAY LIST ▲/▼			
	ALBUM ▲/▼		ALBUM ▲/▼			
	MENU/SELECT ▲/▼		MENU/SELECT ▲/▼			
9	PLAY MODE	PLAY MODE		PLAY MODE		
10	GROUP/SEARCH	GROUP		SEARCH		
11	MEMORY	MEMORY		MEMORY		
12	ENTER	ENTER		ENTER		
13	CLR	CLR		CLR		
14	DISPLAY	DISPLAY	BACKLIGHT	DISPLAY		
15	❙◀◀/▶▶❙	❙◀◀/▶▶❙	❙◀◀/▶▶❙	❙◀◀/▶▶❙		◀◀/▶▶
16	SCROLL	SCROLL	BACKLIGHT			

- それぞれのボタンの働きについての詳細は、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 空欄はボタンを押しても働きません。

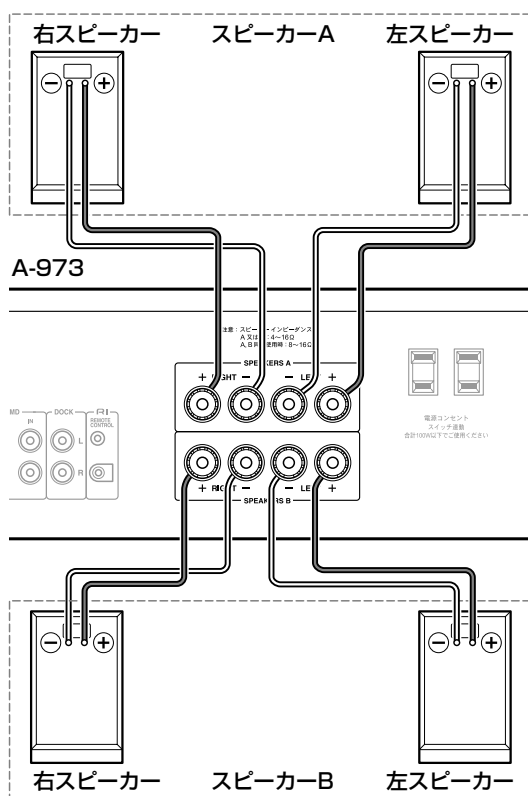
＊ダブルカセットデッキの場合は、デッキBのみ操作することができます。

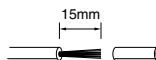
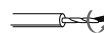
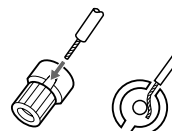
接続をする

スピーカーを接続する

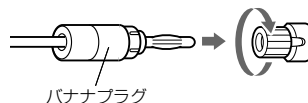
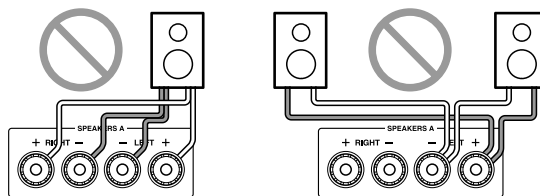
電源コードはすべての接続が終わるまでつながないでください。また、スピーカーに付属の取扱説明書もお読みください。

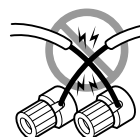
本機には2セットのスピーカーを接続することができます。音楽を鑑賞するときに、どちらのスピーカーから音を出すか選択できます。また、両方のスピーカーから音を出すこともできます。

- スピーカーA、スピーカーBともに必ずL/Rセットで接続してください。
- スピーカーAとB端子の両方に接続して、両方同時に音を出す場合は、インピーダンスが8〜16Ω（オーム）のスピーカーをご使用ください。8Ω未満のスピーカーを接続すると、保護回路が働く場合があります。
- インピーダンスが4〜8Ω（未満）のスピーカーをご使用になる場合は、AまたはB端子の片方だけに接続してご使用になるか、スピーカーA、スピーカーBの音を同時に出さないでください。

スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子、本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子を接続します。

バナナプラグの場合

バナナプラグタイプのスピーカーコードを接続することもできます。その場合は、スピーカー端子のねじを締めてからプラグを挿し込んでください。

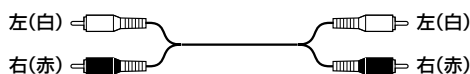
ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1本のスピーカーコードを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険

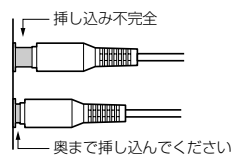
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。
また、リアパネルにも触れないように、ご注意ください。

接続をする

機器を接続する前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードはすべての接続が終わるまでつながないでください。

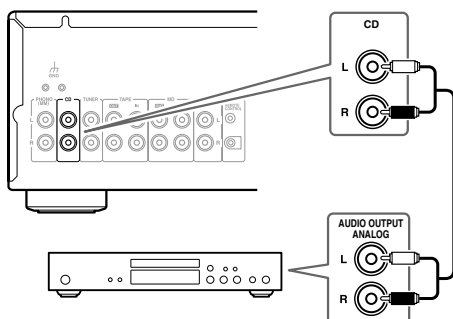
オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

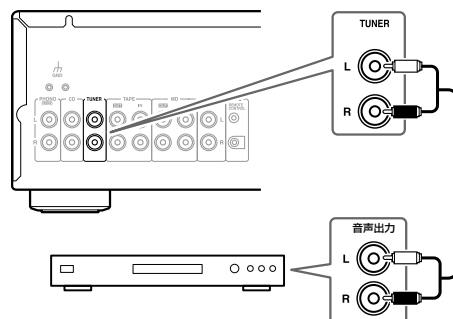
- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（Rの表示）、白いコネクターを左チャンネル（Lの表示）に接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで挿し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質が悪くなることがあります。

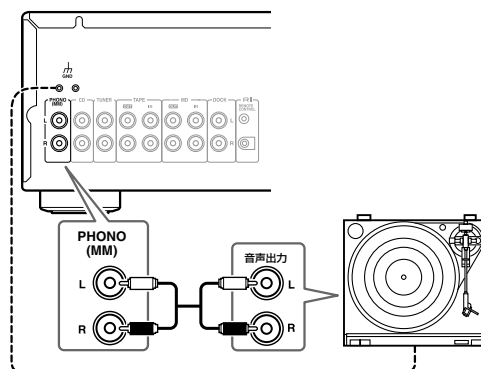
- スピーカーコードや電源コードをチューナーのアンテナに近づけると、影響を与える場合がありますので、できるだけ離してください。

オーディオ機器を接続する

CDプレーヤーを接続する

本機のCD端子とCDプレーヤーのアナログ音声出力端子を接続します。

例：オンキヨー製CDプレーヤー（C-773）との接続

チューナーを接続する

本機のTUNER（チューナー）端子とチューナーのアナログ音声出力端子を接続します。

レコードプレーヤーを接続する

本機はムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。
レコードプレーヤーの接続コードを本機のPHONO（MM）L/R端子に接続します。PHONO端子にはショートピンが挿し込んであります。ショートピンをはずしてから接続してください。

ご注意

アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機のGND端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。

！ヒント

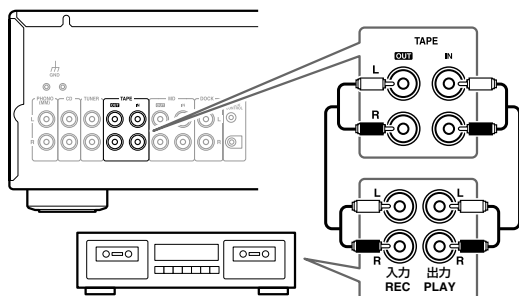
MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをご使用になる場合は、レコードプレーヤーに昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続します。
次に、昇圧トランスやヘッドアンプの音声出力端子と本機のPHONO（MM）L/R端子を接続します。

A-973(13-E<24>)(SN29344448) 14 07.2.1, 2:25 PM
ブラック

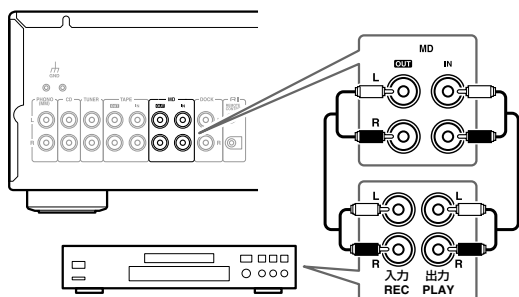
接続をする

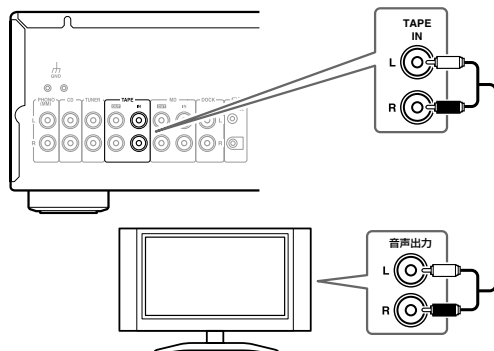
テープデッキを接続する

本機のTAPE OUT端子とテープデッキのアナログ音声入力端子を接続します。

本機のTAPE IN端子とテープデッキのアナログ音声出力端子を接続します。

MDレコーダーを接続する

本機のMD OUT端子とMDレコーダーのアナログ音声入力端子を接続します。

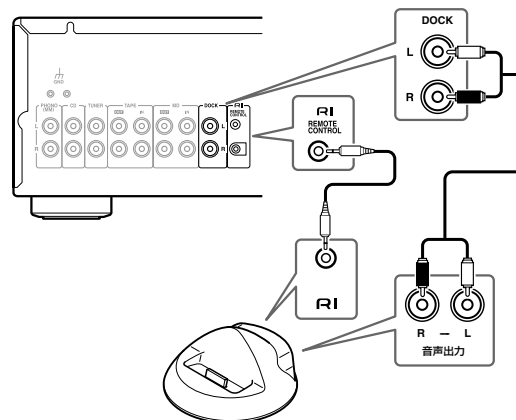
本機のMD IN端子とMDレコーダーのアナログ音声出力端子を接続します。

テレビなどの再生機器を接続する

本機のTAPE IN端子と接続する機器のアナログ音声出力端子を接続します。

！ヒント

テレビに音声出力端子がない場合は、ビデオデッキの音声出力端子を本機と接続すると、ビデオデッキに内蔵されたテレビチューナーでテレビの音をお楽しみいただけます。

リモートインタラクティブドック（RIドック）を接続する

オンキヨー製DS-A1などのRIドックを本機と接続します。

本機のDOCK L/R端子とRIドックの音声出力端子を接続してください。

オンキヨー製RIドックとRI端子接続をすると、以下の機能が使えます。

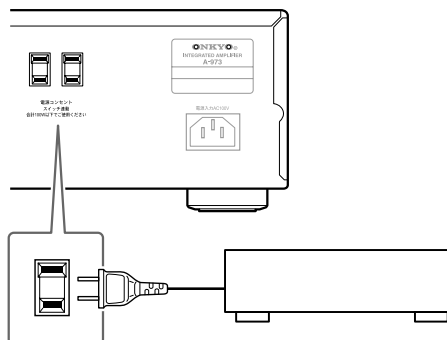
- 本機に付属のリモコンでRIドックを操作できます。（オーディオ用ピンコードも接続してください。）
  RIドックのMODEスイッチは、「HDD」にしてください。
- オンキヨー製RIドックの再生をすると、本機の入力が自動的に「DOCK」に切り換わります。

オーディオ機器の電源プラグを本機につなぐ

本機は後面にスイッチ連動の電源コンセントがありますので、組み合わせて使用するオーディオ機器の電源プラグを挿し込むことができます。本機のPOWERスイッチをオン（▬ON）にして、リモコンで電源をオンにすると、後面の電源コンセントが通電します。スタンバイにすると、通電が切れます。

オンキヨー製CDプレーヤーC-773のように、スタンバイ/オン機能のない製品を本機につなでください。スタンバイ/オン機能のあるRI端子付きのオンキヨー製品は、常時通電しているコンセントをご利用ください。

ご注意

本機の電源コンセントには、合計で100Wを超える機器は接続しないでください。

接続をする

RI ケーブルを接続する

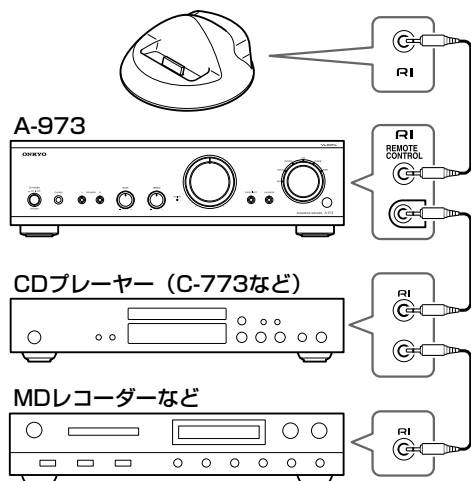
RI端子付オンキヨー製品と組み合わせた場合、システム機能を使うことができます。（本機にRIケーブルは付属していません。各機器に付属しているRIケーブルをご使用ください。）

オートパワーオン
本機の電源をオン/スタンバイすると接続されている機器全体の電源が入ったり、スタンバイ状態になります。

ダイレクトチェンジ
本機に接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作
本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。

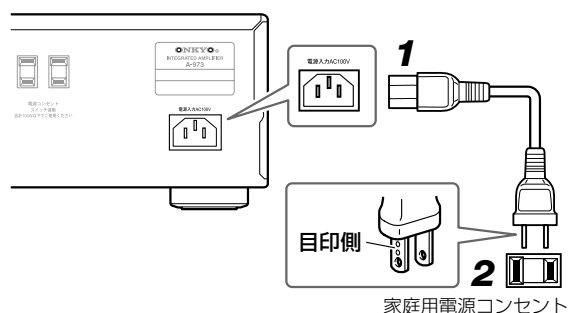
- 使用できるシステム機能については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

（例）

- RI端子はRI端子付きオンキヨー製品と組み合わせてご使用ください。
- RI端子が2つ以上ある場合、それぞれの端子の働きは同じです。いずれにでもつなげます。
- RI 端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
- MDレコーダーを2台など、同じカテゴリーのオンキヨー製品を複数接続する場合、システム機能が働くのは1台だけです。1台だけRIケーブルを接続し、それ以外はRIケーブルを接続しないでください。
- 本機はアンプ製品ですので、他のアンプのRI端子と接続しても連動しません。

電源コードを接続する

電源プラグを接続する前に
すべての接続が完了していることを確認してください。
本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

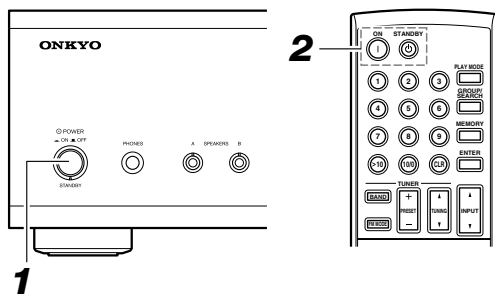
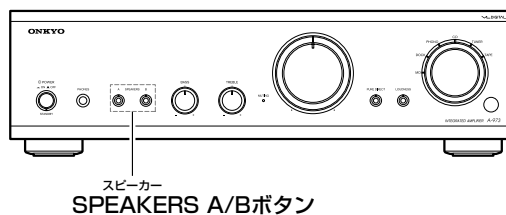
1 **はじめに、本機の電源入力AC 100Vに本機に付属の電源コードを接続します。**

2 **電源コードのプラグをコンセントに挿し込みます。**

よりよい音で聞いていただくために
本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて挿し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。
また、本機をより良い状態で使用していただくため、電力の大きい家電製品（ハロゲンヒーターなど）は、本機で使用するコンセントとは別の壁コンセントをご利用ください。

音楽を鑑賞する

電源を入れる

1

本体

本体のPOWER（パワー）スイッチを押す

主電源が入り、リモコンでオン/スタンバイができるようになります。初めてPOWERスイッチを押したときは、「オン」になります。次回からは、前回スイッチを切ったときの状態（オン/スタンバイ）になります。

2

ON

リモコン

STANDBY

リモコン

リモコンでオンまたはスタンバイにする

オンにするには、リモコンのON（オン）ボタンを押す

STANDBYインジケーターが消灯します。

- リモコンが手元にない場合、本体操作でスタンバイ状態からオンにするには、21ページ「電源」の「リモコンを使わずにスタンバイ状態からオンにしたい」をご覧ください。

スタンバイにするには、リモコンのSTANDBY（スタンバイ）ボタンを押す

STANDBYインジケーターが点灯します。

ご注意

本機は、電源を入れてから動作が安定するまでの約10秒間は、スピーカー保護のため音が出ません。

システム全体の電源を入れるには

スタンバイ/オン機能のあるオンキヨー製品をRI接続している場合にできる操作です。

まず、リモコンのONボタンを押して本機をオンの状態にします。続けてリモコンのONボタンを押すと、RI接続しているすべてのオンキヨー機器も電源が入ります。

A-973とRI接続しているオンキヨー機器の電源が一度に入るようにするには

本機の電源が入った状態でリモコンのONボタンを16秒以上押し続けます。本機がスタンバイ状態になり、次からはリモコンのONボタンを一度押しただけでRI接続している機器すべての電源が入ります。

- 設定を元に戻すときも同様の操作をしてください。

音を出すスピーカーを選ぶ

SPEAKERS（スピーカー） A/Bボタン

スピーカーAもしくはスピーカーBのどちらかだけ音を出したり、スピーカーA、Bの両方から音を出したりできます。

SPEAKERS（スピーカー） A端子に接続したスピーカーから音を出したい場合

SPEAKERS（スピーカー） Aボタンを押して、ボタンの上のインジケーターを点灯させせます。

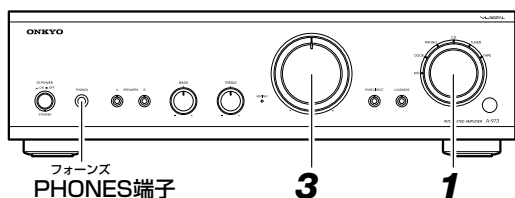
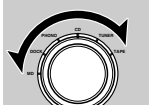
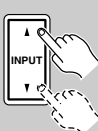
SPEAKERS B端子に接続したスピーカーから音を出したい場合

SPEAKERS Bボタンを押して、ボタンの上のインジケーターを点灯させせます。

接続したすべてのスピーカーから音を出したい場合

SPEAKERS A、Bそれぞれのボタンを押して、ボタンの上の両方のインジケーターを点灯させせます。

接続した機器を再生する

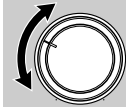
1

INPUT（インプット）つまみを回して、再生する機器を選ぶ

DOCK（ドック）	DOCK端子に接続した機器
PHONO（フォノ）	PHONO端子に接続した機器
CD	CD端子に接続した機器
TUNER（チューナー）	TUNER端子に接続した機器
TAPE（テープ）	TAPE端子に接続した機器
MD	MD端子に接続した機器

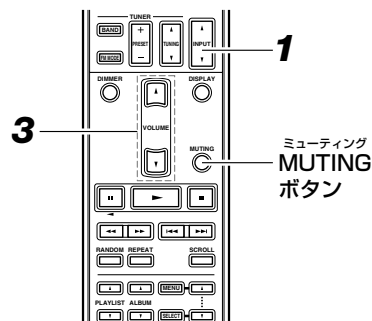
リモコンでは、INPUT（インプット）▲/▼ボタンで選べます。

2

選んだ機器の再生を始める

3

音量を調節する

本体のVOLUME（ボリューム）つまみ、またはリモコンのVOLUME（ボリューム）▲/▼ボタンで音量を調節します。

- つまみは右に回すと音が大きくなり、左に回すと小さくなります。

一時的に音量を小さくする

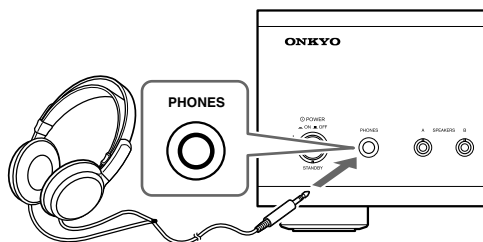
リモコンのMUTING（ミューティング）ボタンを押す

MUTING（ミューティング）インジケーターが点滅します。

解除するには

もう一度MUTING（ミューティング）ボタンを押します。

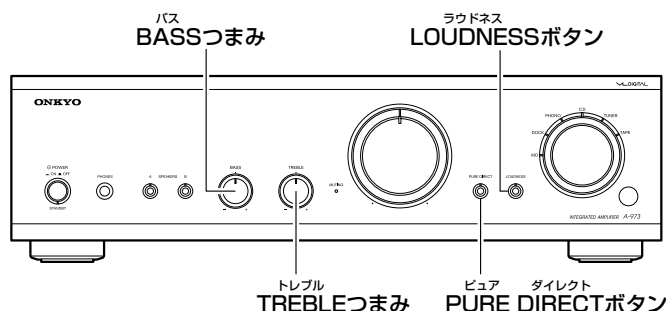
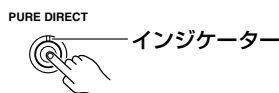
- リモコンで音量を変えた場合も解除されます。

ヘッドホンで聞く

PHONES（フォーンズ）端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続する時は音量を下げてください。
- スピーカーからの音が消えます。

A-973(13-E<24>)(SN29344448) 18 07.1.17, 8:55 AM
ブラック

音楽を鑑賞する

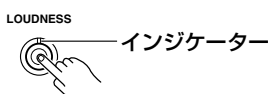
音質を調整する

PURE DIRECT機能を使う

PURE DIRECTボタンを押す

押すたびにピュアダイレクト機能をオン/オフします。

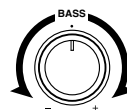
オン：BASS、TREBLE、LOUDNESSなどの音質調整回路を通らないダイレクトな音で聞くことができます。
インジケーターが点灯します。

オフ：音質調整の効果が働きます。
インジケーターが消灯します。

LOUDNESS機能を使う

LOUDNESSボタンを押す

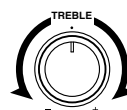
LOUDNESSボタンを押すとインジケーターが点灯し、ラウドネス機能が働きます。
音量を小さくしたときラウドネスを「オン」にすると強制的に高音と低音を強調します。

PURE DIRECT機能が「オン」になっているときは、「オフ」にしてからご使用ください。

低音を調整する

BASSつまみを回す

BASSつまみを回して調整します。
右に回すと低音が強調されます。

PURE DIRECT機能を「オン」にしているときは、ご使用になれません。

高音を調整する

TREBLEつまみを回す

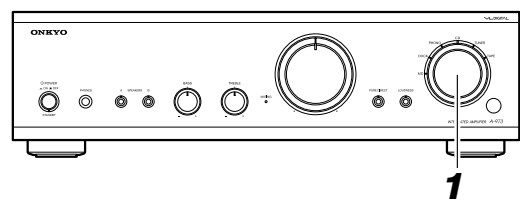
TREBLEつまみを回して調整します。
右に回すと高音が強調されます。

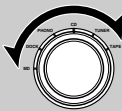
PURE DIRECT機能を「オン」にしているときは、ご使用になれません。

音楽を鑑賞する

録音する

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- TAPE OUT(テープ アウト)端子やMD OUT端子に接続した録音機器に録音することができます。
- 音質調整効果は録音されません。

1

録音する機器（再生側）を選ぶ

INPUT(インプット)つまみを回して、録音する機器(再生側)を選びます。

2

録音する機器（録音側）の準備をする

録音する機器を録音待機状態にします。

- 録音レベルの調整は、録音機器で行ってください。
- 録音のしかたについては、録音機器の取扱説明書をご覧ください。

3

録音を始める

手順***1*** で選んだ再生機器を再生します。

ご注意

録音中に入力を切り換えないでください。切り換えた入力の音が録音されます。

困ったときは

まず下記の内容を確認してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

電　源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。〔16ページ〕
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、10秒以上待ってから再度コンセントに挿し込んでください。

電源が切れ、STANDBYインジケーターが点滅している

- 保護回路が働いている可能性があります。電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

リモコンを使わずにスタンバイ状態からオンにしたい

- 一度、POWERスイッチをオフ（█ OFF）にします。次にSPEAKERS Aボタンを押しながらPOWERスイッチをオン（▬ ON）にします。

音　声

音声が出力されない/小さな音しか聞こえない

- 接続コードのプラグは奥まで挿し込んでください。〔16ページ〕
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。〔14、15ページ〕
- スピーカーコードの+/−は正しく接続されているか、スピーカーコードのしん線部が本機のスピーカー端子の金属部に確実に固定されているか確認してください。〔13ページ〕
- 入力が正しく選択されているか確認してください。〔18ページ〕
- MUTING（ミューティング）インジケーターが点滅している場合は、リモコンのMUTINGボタンを押して解除してください。〔18ページ〕
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合、昇圧トランスまたはヘッドアンプが必要です。〔14ページ〕
- ケーブルが折れ曲がったり、損傷していないか確認してください。
- SPEAKERSつまみが正しく設定されているか確認してください。「OFF」の場合は、どちらのスピーカーからも音が出ません。〔17ページ〕

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが他の機器の影響を受けている可能性があります。接続コードの位置を変えてみてください。

音質調整の効果がない

- PURE DIRECTインジケーターが点灯しているときはピュアダイレクト機能が働いているため、音質調整の効果は出ません。もう一度ボタンを押してインジケーターを消してください。〔19ページ〕

リモコン

リモコン操作ができない

- 乾電池を2本とも新しいものと交換してみてください。〔7ページ〕
- 電池の極性（+/−）が正しく入っているか確認してください。〔7ページ〕
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。〔7ページ〕
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっていると、リモコン操作ができない場合があります。〔7ページ〕
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると、正常に機能しない場合があります。〔7ページ〕

その他

他機の操作ができない

- オンキヨー製品とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。〔16ページ〕
- RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルの接続だけでは連動しません。）

主な仕様

項目	仕様
電源・電圧	AC100V、50/60Hz
消費電力	63W
待機時電力	0.2W
最大外形寸法	435（幅）×124（高さ）×344（奥行）mm
質量	7.3kg
定格出力	40W+40W （8Ω 1kHz、全高調波歪率0.5%以下、2ch駆動） 65W+65W （4Ω 1kHz、全高調波歪率0.5%以下、2ch駆動時）
実用最大出力	85W+85W（4Ω JEITA）
全高調波歪率	0.08%（1kHz、1W出力時）
ダンピングファクター	60（フロント、8Ω）
入力感度/インピーダンス	200mV/50kΩ（LINE） 2.5mV/50kΩ（PHONO MM）
出力電圧/インピーダンス	200mV/2.2kΩ（REC OUT）
PHONO最大許容入力	70mV（MM 1kHz 0.5%）
周波数特性	10Hz〜60kHz/+1dB −3dB（CD）
トーンコントロール最大変化量	+10dB、−10dB、100Hz（BASS） +10dB、−10dB、10kHz（TREBLE） +8dB、100Hz（LOUDNESS） +4dB、10kHz（LOUDNESS）
SN比	100dB（CD、IHF-A） 70dB（PHONO、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス	4Ω〜16Ω
音声入力（アナログ）	PHONO/CD/TUNER/TAPE/MD/DOCK
音声出力（アナログ）	TAPE/MD
スピーカー	2（A、B）
ヘッドホン	1

仕様および外観は、性能向上のため予告なく変更することがあります。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、少なくとも10秒以上放置してから電源プラグを挿し込んでください。

製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

リセットするには
POWERスイッチをオフ（█ OFF）にします。次にSPEAKERS AおよびBボタンを同時に押しながらPOWERスイッチをオン（▬ ON）にします。表示部が全点灯した後リセットされ、オン状態になります。

修理について

■保証書
この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは
意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　A-973
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について
詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は
万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について
本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

A-973(13-E<24>)(SN29344448)　23　07.1.17, 8:55 AM
ブラック

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　　（　　）
メモ：

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間　9：30〜17：30
（土·日·祝日·弊社の定める休業日を除きます）

Printed in Japan
G0701-1

SN 29344448